

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500323		
法人名	社会福祉法人 豊水会		
事業所名	みずなしの丘	ユニット名	ひだまり
所在地	宮城県気仙沼市赤岩水梨子97-55		
自己評価作成日	平成 23 年 9 月 12 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは気仙沼湾を眼下に一望できる里山にあり、自然環境にとっても恵まれています。ホームを1周する形で遊歩道が整備されており畑の作物の成長を間近に楽しみながら毎日散歩ができます。また畑作りは地域の方に協力を頂き、様々な無農薬野菜を栽培しており、ホームのとれたて野菜や日本一に輝いた地元のコシヒカリを入居者様に提供しながらスローフードの実践に努めています。健康管理という点では口腔ケアに力を入れており、3年前より毎食後行っています。風を引きにくくなったなど、継続して行っている成果を多く認められています。地域との関わりという点では、散歩の途中で立ち寄れる近所つきあいや地域の行事の案内状が毎年届くなどの関係が出来上がっており、入居者の皆様には地域の一員として顔馴染みの関係を築きながら交流を深め、生き生きと暮らしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年目となり地域に根付いた生活をしている。広い畑には1年中作物が植えられ食卓を飾る。入居者の手により取り分けられた枝豆、サツマイモ、大根、白菜など直売所にて販売しその売上でプレゼントとして低反発座布団を入居者に送り喜ばれた。開設当初に入社し管理者として3年になる。入居者の状況を考慮し、職員間で話し合いを持ち、より手厚い介護をしようと2つのユニットを状態別にして1年半になる。軽度の棟では仲間意識が見られ、入居者同士お互いを支えあう関係ができた。一方の重度の棟では職員間の応援体制もあり手厚く入居者に関ることができ、職員のケアの負担軽減と質を高め評価できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 みずなしの丘)「ユニット名 ひだまり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてのGH独自の理念を作り、誰でも分り易く見やすい場所に掲示している。勉強会を開いたりして、理念の浸透、介護の心構えに役立っている。	理念はケアの中心とし、一つの判断基準としている。自立支援に向けた取組みであり、職員(新人)研修で必ず話し理解を促し共有し取り組んでいる。年に1度振り返る時期を設け、理念を確認することを進めたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中に立ち寄りたり、おすそ分けをしあうような近所つきあいがある。地域の行事には積極的に参加し、顔馴染みの関係が出来上がっている。	事業所所有の畑を地域の方々が耕してくれたり、その畑を見回りながら散歩する入居者と地域住民とのふれあい、神社のお田植祭に招かれ田植えをする等、入居者も地域の住民として参加し積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談があれば、いつでも対応するように努め、ホームの機能を地域に還元できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告から毎回議題を設け話し合い、意見はサービス向上に行かすように努めている。外部評価結果を必ず報告し、意見を頂き次の評価へつなげるようにしている。震災後は開催出来ないで居る。	地域包括参加のもと、1ヶ月おきに開催しているが、震災の影響で滞りだが再開に向けている。ホームの状況報告を主題とし、参加者からは家族で抱える介護の問題等話し合っている。定期的開催する事が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	気軽に相談できる関係作り心がけ、運営推進会議のメンバーになって頂いたり、また、報告・助言を頂きながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。震災後はより密に連絡をとっている。	震災時には市の避難所扱いとして物資の援助があり、食料の提供が10日間続き、非常に助かった。市は何かと協力的であり、諸手続き、相談に応じてくれ協力的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの大切さを認識しケアに当たっている。玄関施錠は夜間のみ行い、自由にホーム周辺を散歩でき農作業している近所の方にも目を配って頂けるような環境を整えている。	具体的な事例を挙げて拘束について研修をし、職員は拘束における弊害を理解している。玄関の施錠はしていない。知り合いの家と思いい近所にひとりで出かけてしまう入居者を双方が連絡を取り合いいつでも受け入れが可能であると近所の理解もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳について十分認識している。虐待について行う事がないよう職員間でも理解し浸透している。学ぶ機会は今後も継続して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料を配布し学びの機会作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間を取り、退居を含めた事業所としての対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。ご家族からの要望・質問にも十分答えるようにして契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族には、いつでも何でも話して頂けるようお願いしている。苦情担当職員や第三者委員を設け、ご家族の意見を運営に反映させるように努力している。	家族の面会の頻度も高く、管理者とも顔馴染みとなり話し込まれる方も多いが特に苦情、要望は聞かれない。家族アンケートの回収率(89%)もよく好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議や折りにふれて、職員の意見を聞く機会を設けている。より良い意見や提案が聞け運営に反映できるように、気軽に話が出来る雰囲気作りにも努めている。	今回の震災で家族等が被災され5人の退職者があった。早急な採用であり、親子、親戚等職員の新人採用となった。入居者のケア、介護技術に関する意見が多く、研修を通し統一したケアに向けた取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を常に把握し、一人ひとりがやりがいを感じて働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外問わず研修を受ける機会を多く持ち、資格取得に向けた働きかけとして費用の一部補助を行うなど育てる取り組みには、力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の交換研修、市内の連絡協議会の会議や研修にも積極的に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでご本人に会い、ご本人の思いや不安を受け止めようと努力している。入居してからも職員はご本人の思いを理解し安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に見えた方には十分話を伺い、ご家族が困っている事が解決できるようなアドバイスが出来、認知症に対する不安が少しでも解消出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族からの相談を受けた時には、必要としている支援の選択肢を助言し、他のサービスにおいても連絡を取り合い利用できるようにしている。相談者の立場に立った対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重する気持ちを持ち、一方的な支援をすることが無いよう気をつけている。また、利用者様の持っている生活の知恵や技術を活動の中で教えて頂く場面も多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係作りに努め、ご家族の不安や要望を聞きながら、良い支援が出来るようご家族と一緒にご本人を支えて行く関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問時にはお茶を飲みながらゆっくりして頂けるよう配慮している。馴染みの場所にドライブで出掛けることもある。	姉妹、ご夫婦で入居している方、入居後に知り合いと出会うことで落ち着いて過ごしている方がいる。毎月同級会に参加する等、入居者が安心した生活が送れるように馴染みの関係性を重んじた支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの役割を通し、集団生活の中でお互いを支え合えるような関係作りに努めている。全員がいつも食堂に集まってきてみんなと一緒にいると落ち着けるという雰囲気が出来上がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な時にはいつでも相談して欲しい旨話し、機会を作り、退居後の様子を伺いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望を察したり、会話や日々の支援を通して意向の把握に努めている。困難な場合にはご家族からの協力も得て、ご本人の立場に立って話し合っている。	症状の状態低下と共に不穏が強くなり、入居者の元気な頃に視点を置き、漁協から塩蔵昆布を提供してもらい、結び昆布を作ること等、一人ひとりの思いを引出し計画書に反映し細やかな対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やご家族の面会時などにお話を聞かせて頂き、情報収集に努めている。今までの生活を知ることでケアに行かせることが多いので意味と重要性をご家族に理解協力を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の状況を十分に把握しながら情報の共有に努め、それぞれにあった支援を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のシートを活用し、職員全員で情報収集して、ご本人ご家族の意向を汲んだケアプランを作成している。3ヶ月に1回のモニタリングにて見直しをしている。	東京センター方式を活用し、入居後1ヶ月くらい様子を見て計画書を作成している。日常の記録を「ひもときシート」に記入し、一人ひとりの思いなどニーズに合わせ計画書に記入し定期的に見直し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や気づきを、個別記録の記入・口頭での申し送りを密に行う事で、職員全員が情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況や要望に応じて通院介助や送迎、病院からの薬もらい、外出支援、買い物代行など臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の警察・学校・民生委員さん・ボランティア団体の協力の下、暮らしている。安全でより良い暮らしを送って頂けるように地域資源を活用し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診。受診時連絡表を作成しご家族にお渡し、場合によってはホームの看護師が受診対応している。病院から週1回ナースが来て注射を打ってもらっている方もいる。	定期通院の対応は家族としているが、状況に応じ看護師が付き添っている。医師、家族に情報提供書で情報を送っている。看護師が常駐し、24時間オンコール体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が介護の現場で一緒に働いているので、連携は密にとれている。常に利用者様の健康状態を把握し定期受診の予定を立てたり、急な状態変化にも対応出来るように連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の段階から病院関係者との関係づくりに努め、入退院時の連絡調整がスムーズにいくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化のユニット分けをしている。適切な支援が出来るように終末ケアの研修参加で職員の意識向上を図ったり、正看護師を雇用し、医療との連携がスムーズに行き、利用者様の希望に応じられるような体制作りを努めている。	入居者の重度化に伴い、看取りに向けて準備が進められ、市に相談に行こうとした矢先に震災に合い滞っている。正看護師の採用、同業者に相談に行く等進捗状況が確認されたが書類、職員研修はこれからの課題である。	看取りにおける成文化と意思確認書の整備、新人職員が多く懸念されることだが実体験、段階に応じた研修の実施、家族への説明などその準備をしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し操作方法を学び、急変時に的確な対応が出来るようにしている。緊急時対応マニュアル・緊急連絡網を整備している。年1回の予定で救急救命講習に参加していたが、震災後は参加できずにいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方の協力を得、総合避難訓練は年2回(うち1回は夜間想定)実施。その際には業者にも立ち会ってもらい、職員全員で通報装置の操作方法を再確認している。スプリンクラー設置(H22.4月)	運営推進会議に合わせて地域住民の参加で2回実施した。震災を機に、寒さ対策、懐中電灯を各部屋1個、備蓄のチェック等の反省が上がった。地域から水、お湯の提供があり入居者の足浴等に役立てた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守ること、守秘義務について勉強会を通し全職員が理解しており、個人を尊重しプライバシーを損ねない対応を心掛けている。ゆっくりとした言葉で穏やかに接するように努力している。	通常のケアに慣れてしまい、大声で声掛けしがちである。自分がされて嫌なことはせず、常に入居者の意識を高める事を心掛け、外出、行事にはお洒落等配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりにあわせた声かけをしたり表情など気づきを大切にして、遠慮せず自分の思いを自由に言えるような雰囲気作りに努め、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な普通の生活を、ゆったりとした中で過ごして頂けるように支援している。利用者様のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張散髪を定期的に利用し顔毛は職員がこまめに剃り、いつもこざれいであるように努めている。行事等にお化粧サービスを行う事があるが、表情が明るくなり、とても、好評である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは一人ひとりの力に合わせ分担し、職員と一緒にいる。お好み献立では利用者様の好みや希望を汲み、職員も同じ食卓を囲み、いつも和やかな雰囲気の中で食している。	自給自足に近い野菜、果物が季節感を感じさせ、食卓を飾る。入居者の状態に応じた役割があり、準備、片付けを職員と共に行っている。食卓は職員が積極的に話しかけ、話題も多くみなさんおいしそうに完食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、旬の食材とホームの新鮮野菜を取入れ栄養バランスのとれた食事を提供。一人ひとりの状態に合わせお粥やきざみ食などの対応により残食が少ない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず状態に合わせた歯磨き支援を行っている。全員で行うことで歯磨きの習慣が定着している。口腔ケアについての研修にも参加し、習得した知識と技術を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者様一人ひとりの排泄パターン・排泄回数・便意の確認をしておき、夜間にも出来るだけトイレ誘導やポータブルを使用するようにしている。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの状況に合わせ介助歩行、声掛け誘導している。夜間帯は安眠を重視しオムツ、ポータブルトイレを使用している。ホームに入居していても市からオムツ代の補助が支給されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排便間隔を把握し、排便コントロールを行っている。食後の排便を促したり、体操・食物繊維・乳製品を多く摂るなど、自然排便を図るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午前中に行い、一人ひとりの希望に合わせた介助方法や回数・時間帯などを体調を見ながら調整し支援している。拒否が強い方には、強制せず対応を工夫し支援している	平均して2日に1回の入浴が多い。拒否をする方は「ひもときシート」に記入し原因を探っている。脱ぎ着が面倒、自立度が高くてもちょっと手を貸すことで快く入浴してくれるなど計画書に反映させ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の安眠につなげるよう、日中の活動を多く取入れている。引き継ぎを通して一人ひとりの睡眠時間を把握し、日中の午睡時間を調整するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋をファイルにして管理し、内容を把握している。服薬の在庫確認や病院への連絡も分担して行っている。予薬も一人ひとりに合わせた確実な方法を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が何が好きなか、何を楽しみにしているのかを職員間で話し合い、その利用者様一人ひとりにあった支援をしている。出来る範囲内での毎日の役割活動を支援し有用間・満足感を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方でも散歩やドライブの支援をしている。ご家族の協力を得て出かけるなど、おつきあいの継続と満足感を得るように努めている。	ユニット毎に軽度、重度に分けたことで軽度の「せせらぎ」は日常的に畑や近所に仲間を誘いあい散歩したり、外出することが多い。「陽だまり」は重度化し職員配置を多くし外出ができた。平均的な対応をするべく事業所は入居者の状態に応じた創意工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については妄想につながる事も多いので、慎重に対応するようにしている。すべて事務室で管理するのではなく、一人ひとりの力に応じ、また、意向を伺って対応するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事はご本人から聞いた事に職員が近況報告を添え出すようにしている。電話のやりとりも自由に行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すだれやカーテンで光や温度の調整を行い、戸窓を開放し新鮮な空気を入れ、圧迫感を感じさせないように努めている。また、季節感を感じられるように、季節の花を生けたり、壁の貼り絵など空間作りの工夫も行っている。	木造の広い居間、長い廊下は自然な光が差し込み、適湿温に管理している。入居者がゆったりとくつろげるスペースとなっている。上がりりの和室、陽だまりの廊下には椅子が置かれ、入居者同士で歌を歌う等思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりを活用している。限られた空間の中で居心地の良い居場所作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族との写真、使い慣れた品を眺めながら、安心し居心地良く暮らして頂けるよう工夫をしている。居室入り口にのれん使用するなどプライバシーにも配慮している。	畳の部屋に、洗面台が設置してある。入居者の状態によりベッド、布団、こたつが置かれすっきりと整理されている。震災後に二人部屋となった居室には稼働できる衝立で仕切り職員の工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況を把握し、混乱・失敗を防ぎながら自立した生活をして頂くように支援している。状態に合わせ手すりの見直しをしたり、安全に暮らせるように点検を行い環境を整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500323		
法人名	社会福祉法人 豊水会		
事業所名	みずなしの丘	ユニット名	せせらぎ
所在地	宮城県気仙沼市赤岩水梨子97-55		
自己評価作成日	平成 23 年 9 月 12 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは気仙沼湾を眼下に一望できる里山にあり、自然環境にとっても恵まれています。ホームを1周する形で遊歩道が整備されており畑の作物の成長を間近に楽しみながら毎日散歩ができます。また畑作りは地域の方に協力を頂き、様々な無農薬野菜を栽培しており、ホームのとれたて野菜や日本一に輝いた地元のコシヒカリを入居者様に提供しながらスローフードの実践に努めています。健康管理という点では口腔ケアに力を入れており、3年前より毎食後行っています。風を引きにくくなったなど、継続して行っている成果を多く認められています。地域との関わりという点では、散歩の途中で立ち寄れる近所つきあいや地域の行事の案内状が毎年届くなどの関係が出来上がっており、入居者の皆様には地域の一員として顔馴染みの関係を築きながら交流を深め、生き生きと暮らしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年目となり地域に根付いた生活をしている。広い畑には1年中作物が植えられ食卓を飾る。入居者の手により取り分けられた枝豆、サツマイモ、大根、白菜など直売所にて販売しその売上でプレゼントとして低反発座布団を入居者に送り喜ばれた。開設当初に入社し管理者として3年になる。入居者の状況を考慮し、職員間で話し合いを持ち、より手厚い介護をしようと2つのユニットを状態別にして1年半になる。軽度の棟では仲間意識が見られ、入居者同士お互いを支えあう関係ができた。一方の重度の棟では職員間の応援体制もあり手厚く入居者に関ることができ、職員のケアの負担軽減と質を高め評価できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 みずなしの丘)「ユニット名 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の下、地域密着型サービスとしてのGH独自の理念を作り、誰でも見やすい場所に掲示し、日々の支援の中で機会あるごとに話し合い、ケアの指針としている。	理念はケアの中心とし、一つの判断基準としている。自立支援に向けた取組みであり、職員(新人)研修で必ず話し理解を促し共有し取り組んでいる。年に1度振り返る時期を設け、理念を確認することを進めたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中に立ち寄りたり、おすそ分けをしあうような近所づきあいがある。地域の行事には積極的に参加し、顔馴染みの関係が出来上がっている。	事業所所有の畑を地域の方々が耕してくれたり、その畑を見回りながら散歩する入居者と地域住民とのふれあい、神社のお田植祭に招かれ田植えをする等、入居者も地域の住民として参加し積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談があれば、いつでも対応するように努め、ホームの機能を地域に還元できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告から毎回議題を設け話し合い、意見はサービス向上に生かすように努めている。外部評価結果を必ず報告し、意見を頂き次の評価へつなげるようにしている。震災後は開催出来ないでいる。	地域包括参加のもと、1ヶ月おきに開催しているが、震災の影響で滞りだが再開に向けている。ホームの状況報告を主題とし、参加者からは家族で抱える介護の問題等話し合っている。定期的開催する事が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に相談できる関係作り心がけ、運営推進会議のメンバーにもなって頂いている。報告やいろいろな助言を頂きながら、勉強会などにも参加している。震災後は、より密に連絡をとっている。	震災時には市の避難所扱いとして物資の援助があり、食料の提供が10日間続き、非常に助かった。市は何かと協力的であり、諸手続き、相談に応じてくれ協力的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外、利用者様が自由に玄関から出入り出来るようにしている。勉強会を通して身体拘束による弊害をよく理解し知識を身につけ、拘束のないケアに当たっている。	具体的な事例を挙げて拘束について研修をし、職員は拘束における弊害を理解している。玄関の施錠はしていない。知り合いの家と思いき近所にひとりで出かけてしまう入居者を双方が連絡を取り合いいつでも受け入れが可能であると近所の理解もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通し虐待防止について定期的に学ぶ機会を設け、虐待を行うことがないように職員間でも理解し浸透している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料を配布したりして学びの機会を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をとり、退居を含めた事業者としての対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。また、家族からの要望・質問にも十分答えるようにして契約を交わしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ご家族にはいつでも、何でも話して頂けるように心掛け、運営推進会議や相談窓口で意見や要望を表せる場がある事を説明している。苦情に対しては適切に対応出来るように苦情解決要綱を定めている。	家族の面会の頻度も高く、管理者とも顔馴染みとなり話し込まれる方も多いが特に苦情、要望は聞かれない。家族アンケートの回収率(89%)もよく好評である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議や折りにふれて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。より良い意見や提案が聞け、それを運営に反映できるよう、気軽に話が出来る雰囲気作りにも努めている。	今回の震災で家族等が被災され5人の退職者があった。早急な採用であり、親子、親戚等職員の新人採用となった。入居者のケア、介護技術に関する意見が多く、研修を通し統一したケアに向けた取り組みをしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境作りにも配慮し、長く働き続ける事が出来るように支援している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外問わず研修を受ける機会を多く持ち、資格取得に向けた働きかけとして費用の一部補助を行うなど、育てる取り組みには力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加させ、質の向上、サービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時には、必ずご本人に会い、ご本人の思いや状況等を確認している。入居後は生活歴の把握からも初期段階からの信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に見えた方には十分話を伺い、在宅での生活のアドバイスをしたり、ホームの様子を説明したりして、認知症に対する不安が少しでも解消出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの説明をしながら、あらゆる選択肢を探せるように助言を行っている。他のサービスについても連絡をとりながら利用できるようにしている。相談者の立場に立った対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊重する気持ちを心がけ、知らなかった事を教えてもらい、知恵を授けて頂けるような関係作りに努めている。一緒に食事を作ったり、洗濯物を干したりたんだりを日課として行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思い、ご家族の思いが出来るだけ伝わるように連絡・調整・支え合いを行い、お互いの思いが理解できるように協力・支援している。通院時には、ご家族対応して頂いている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会客にはお茶を飲みながらゆっくり談話して頂けるように配慮している。幼馴染の友人が外出支援をしてくれたり、定例の同級会に参加するなど大切にしてきた関係を継続できるように努めている。	姉妹、ご夫婦で入居している方、入居後に知り合いと出会うことで落ち着いて過ごしている方がいる。毎月同級会に参加する等、入居者が安心した生活が送れるように馴染みの関係性を重んじた支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割や活動を通して、お互い協力出来る関係性作りに努めている。孤独感を感じる事がないよう配慮している。利用者様同士居室でお茶のみをしたり、4～5人で小上がり付近で談笑する姿も日常的に見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な時にはいつでも相談して欲しい旨話し、相談があった時には対応している。機会を作り、退居後の様子を伺いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や支援を通し、希望や意向を聞くなど気づく様にし、普段から会話を多く持つように心掛けている。ご家族ともご本人の思いについて話しあう機会を設けている。	症状の状態低下と共に不穏が強くなり、入居者の元気な頃に視点を置き、漁協から塩蔵昆布を提供してもらい、結び昆布を作ること等、一人ひとりの思いを引出し計画書に反映し細やかな対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やご家族の面会時などにお話を聞かせて頂き、情報収集に努めている。今までの生活を知ることによってケアに生かせることが多いので意味と重要性をご家族に理解協力を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の状況を十分に把握しながら情報の共有に努め、それぞれにあった支援を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の要望を察しながら職員全員でアセスメントシートを勉強しあい情報収集、活用しケアプラン作成に参加、ご家族にもプラン要望を伺い作成している。年4回プランの見直しを行い、御家族の同意を得ている。	東京センター方式を活用し、入居後1ヶ月くらい様子を見て計画書を作成している。日常の記録を「ひもときシート」に記入し、一人ひとりの思いなどニーズに合わせ計画書に記入し定期的に見直し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて食事摂取量、バイタル、排泄、日々の生活観察で気づいたこと、連絡事項を記録。また連絡ノートにて職員全員で情報の共有化を徹底し見たら必ずサインするようにしており、申し送りでも報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況や要望に応じて通院介助や送迎、病院からの薬もらい、外出支援、買い物代行など臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で暮らし続けていけるように警察や消防、学校、民生委員さん、ボランティア団体等の協力の下生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診している。受診時にはホームでも様子を記録にて提供している。必要な場合には職員が同行受診している。	定期通院の対応は家族としているが、状況に応じ看護師が付き添っている。医師、家族に情報提供書で情報を送っている。看護師が常駐し、24時間オンコール体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が介護の現場で一緒に働いているので、連携は密にとれている。常に利用者様の健康状態を把握し定期受診の予定を立てたり、急な状態変化にも対応できるように連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の段階から病院関係者との関係作りに努め、入退院時の連絡調整がスムーズに行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての「できること・できないこと・どこまでできるのか」を常に判断しながら重度化の支援を行っている。重度化のユニット分けをしており、適切な支援が出来るよう職員のチーム意識の向上を図りながら支援している。	入居者の重度化に伴い、看取りに向けて準備が進められ、市に相談に行こうとした矢先に震災に合い滞っている。正看護師の採用、同業者に相談に行く等進捗状況が確認されたが書類、職員研修はこれからの課題である。	看取りにおける成文化と意思確認書の整備、新人職員が多く懸念されることだが実体験、段階に応じた研修の実施、家族への説明などその準備をしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し操作方法を学び、急変時に的確な対応が出来るようにしている。緊急対応マニュアル・緊急連絡網を整備している。年1回の予定で救急救命講習に参加していたが、震災後は参加出来ずにいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や地域の方々の協力を得、総合避難訓練は年2回(うち1回は夜間想定)実施。その際には業者にも立ち会って頂き、職員全員で通報装置の操作方法を再確認している。スプリンクラー設置(H22. 4月)	運営推進会議に合わせて地域住民の参加で2回実施した。震災を機に、寒さ対策、懐中電灯を各部屋1個、備蓄のチェック等の反省が上がった。地域から水、お湯の提供があり入居者の足浴等に役立てた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守る事、守秘義務について勉強会の中で定期的に話しているため、全職員が理解しており、個人を尊重しプライバシーを損なわない対応を心掛けている。ゆっくりとした言葉で、穏やかに接するようにしている。	通常のケアに慣れてしまい、大声で声掛けしがちである。自分がされて嫌なことはせず、常に入居者の意識を高める事を心掛け、外出、行事にはお洒落等配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	せせらぎ棟の入居者様方は全員自己決定できる方たちだが、周囲を気にし遠慮が見られる場合があるので、遠慮せず自分の思いを自由に言えるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様全員が日課を理解し、生活する上での役割を持ちながら、各々好きな読書やテレビ、また、数人で集まってのお茶呑みやおしゃべりと好きな事をして自分たちの時間を楽しむことが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張散髪を定期的に利用し顔毛は職員がこまめに剃り、いつも身だしなみを整えこぎれいであるように努めている。外出や行事などにはそれなりにおしゃれが出来るように支援している。お化粧の支援をする事もあ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片づけなど、利用者様と職員が一緒に行い、食事と一緒に摂っている。摂取状況を観察して在宅の栄養士に連絡をとりメニューに反映している。畑の新鮮な野菜と一緒に収穫して調理することもある。	自給自足に近い野菜、果物が季節感を感じさせ、食卓を飾る。入居者の状態に応じた役割があり、準備、片付けを職員と共に行っている。食卓は職員が積極的に話しかけ、話題も多くみなさんおいしそうに完食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分の摂取量を記録し申し送りを通し、一人ひとりの状態を職員が把握している。毎月体重測定を行い、体重の増減に合わせ栄養士や看護師、医師からの指導を受け摂取量をコントロールする方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアに立会い声掛けしながら、研修で習得した知識と技術を実践している。入れ歯は夜間預かり洗浄。定期的に訪問歯科診療の口腔ケア指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した方が多いが排泄表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握している。入院して排泄感覚がなくなりオムツ使用となって退院してきた方がトイレ誘導を行ううちにトイレでの排泄が可能になってきた。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの状況に合わせ介助歩行、声掛け誘導している。夜間帯は安眠を重視しオムツ、ポータブルトイレを使用している。ホームに入居しても市からオムツ代の補助が支給されて	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排便間隔を把握し、排便コントロールを行っている。食後の排便を促したり、体操・食物繊維・乳製品を多く摂るなど、自然排便を図るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後より入浴を行っている。気の合う人同士と一緒に入り背中を流しあったり、1時間もの長風呂を楽しむ方もおり、一人ひとりの希望に添った支援をしている。	平均して2日に1回の入浴が多い。拒否をする方は「ひもときシート」に記入し原因を探っている。脱ぎ着が面倒、自立度が高くてちょっと手を貸すことで快く入浴してくれるなど計画書に反映させ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課としての散歩を勧め、陽に当たり体を動かすよう支援し、安眠につなげるようにしている。就寝時、水枕を使用する方もおり、一人ひとりの生活習慣を継続した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの処方箋を見やすくファイルに綴じ、内容を把握できるようにしている。服薬時は飲み込むまで確認している。薬によっては服薬後の症状の経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が何が好きなのか、何を楽しみにしているのかと職員間で話し合い、その利用者様一人ひとりにあった支援をしている。出来る範囲内での毎日の役割活動を支援し有用感・満足感を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遊歩道の散策、ドライブや各種の行事等への参加、外食などを楽しめるように支援している。友人の付き添いで買い物をしたり、慶弔時やお見舞い・お墓参りなどにご家族と共に出かけられる方もおられる。	ユニット毎に軽度、重度に分けたことで軽度の「せせらぎ」は日常的に畑や近所に仲間を誘いあい散歩したり、外出することが多い。「陽だまり」は重度化し職員配置を多くし外出ができた。平均的な対応をするべく事業所は入居者の状態に応じた創意工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については妄想につながる事も多いので、慎重に対応している。すべて事務室で管理するのではなく、一人ひとりの力に応じ、また、意向を伺って対応するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はすぐに取り次ぎ、電話をかけたいとの希望にもすぐに対応している。携帯電話を持ち、ご家族にいつでも電話が掛けられるようにしている方もいる。手紙が書けない方には思いを聞き出し代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓・清潔を心がけ、季節感のある手作り作品や写真等を飾り、居心地よい共同空間作りに努めている。食堂からは毎日ホームの畑や山々や海の自然を眺め、季節を肌で感じながら過ごして頂いている。	木造の広い居間、長い廊下は自然な光が差し込み、適湿温に管理している。入居者がゆったりとくつろげるスペースとなっている。上がりりの和室、陽だまりの廊下には椅子が置かれ、入居者同士で歌を歌う等思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がり前に椅子を配置し、居場所の工夫をしている。みんなで歌を歌ったり、景色を眺めながら数人でおしゃべりしたり、日光浴をしながら一人読書をする方もおり、お気に入りの場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	様馴染みのダンスやテーブルなどを配置し、自分の部屋と安心でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。のれんを使用したり、2人部屋では間仕切りのスクリーンを置き、プライバシーには十分配慮している。	畳の部屋に、洗面台が設置してある。入居者の状態によりベッド、布団、こたつが置かれすっきりと整理されている。震災後に二人部屋となった居室には稼働できる衝立で仕切り職員の工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように廊下にテープを貼ったり、自分の部屋と認識できる小物をドアに掛けたりして、できるだけ自立した生活が送れるように工夫。手摺りの見直しなど安全点検し、環境整備している。		